



営農だより



例年5月中旬から6月下旬に問題になる病害虫です。予防を徹底しましょう！！

● 白ねぎ ※べと病の発生前に予防剤「レーバスフロアブル」を使用。

※べと病発生後は、「シグナムWDG＋展着剤」（治療剤）散布と、1週間後に「アミスター20フロアブル」（治療剤）の2度の散布が必要です。

注意：薬害の恐れがあるため、アミスター20フロアブルには展着剤を使用しない。



- 白ねぎ べと病発生状況 -
1回の防除では止まらない！



6月に入るとネギハモグリバエ被害があります。6月上旬に「ダントツ粒剤」を3～6kg／10a株元散布して下さい。被害が拡大すると生育がかなり遅れるので注意して下さい。

● きゅうり

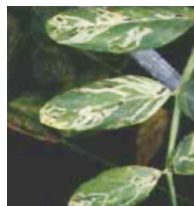


べと病



うどんこ病

● えんどう(きぬさや・スナップ)



ナモグリバエ



うどんこ病

散布については、農薬ラベルを確認し、使用時期、使用量を守り、予防的防除を心がけましょう。詳しくは、[営農指導員へご相談ください](#)。また、右記2次元コードからJAしまね島根おちのホームページから確認ができます。



JAしまねの**広域集出荷調製施設**を利用した
玉ねぎを栽培してみませんか！

営農指導員より栽培のポイント 品種：「七宝早生7号」・「ターザン」 中生を使用

苗は10aあたり45～50枚（448穴トレイ）必要です（JAで育苗しています）。

定植機・収穫機の貸し出しも行っております。

早めの防除（病害虫）と除草が玉ねぎ栽培のポイントとなります。営農指導員が圃場を巡回して確認をしていきます。



● 早生品種：七宝早生7号

定植：10月下旬～11月上旬 → 収穫5月上旬

● 中生品種：ターザン

定植：11月上旬 → 収穫5月下旬～6月上旬

JAしまねの広域集出荷調製施設を利用した場合の玉ねぎの経営収支

		10a 当たり	備考
粗収益	売上げ	540,000	収量 5t/10a × 108 円 /kg
	産地交付金	50,000	作付支援（令和6年度）
経営費	資材費	125,144	県経営指針参考
	施設利用費	120,000	24 円 /kg
	販売経費	212,250	県内事例参考
	減価償却費	22,850	県経営指針参考
所得		109,756	
労働時間		88	小規模機械化体系

※販売単価は、広島市場の島根県産平均単価です（過去10年、最高値230 円 /kg、最安値72 円 /kg）

※上記の試算はモデルであり、気象条件や技術レベルにより変動することもあり、所得を保証するものではありません



生産者の声：江津市桜江町のたまねぎ生産者の皆様より

収穫後はJAしまね広域集出荷調製施設を活用するため、栽培だけに専念できます。栽培期間中分からない事、心配な事があれば島根県・各市町・JAがサポートしてくれます。一緒に玉ねぎ栽培をしてみませんか！